

守山市

発達支援センターだより

令和2年6月号

令和2年6月30日発行

守山市発達支援センター（発達支援課）

守山市下之郷三丁目2番5号 すこやかセンター内

Tel : 077-582-1158 Fax : 077-581-1628

シリーズ 就労支援について①

守山市発達支援センターでは発達障害の方、またはその疑いのある方に対して、就労支援事業を実施しています。今年度は4回シリーズで就労支援についてお伝えします。第1回目のテーマは「就労にあたり大切なこと」です。

～就労にあたり大切なこと～

人には、得意と苦手な事があります。発達障害の人は、一般的に得意と不得意な事の差が非常に大きいと言われていています。興味や関心へのこだわりが強く、高度な技術や知識を持っている人もいれば、エネルギーで行動力があり、気後れせずに誰とでも話をする人がいます。また、発想力が豊かで色々なアイデアを出せる人もいます。これらの素晴らしい能力を有しているにも関わらず、社会で認めてもらえないといった残念な現実が存在していることは少なくはありません。



例えば、国立の大学および大学院で物理学を学んで卒業した人が、最低賃金で働いていたり、TOEICで900点を取れた人が軽作業の仕事をしているといった現実があります。



発達障害の人の仕事選びは、相性（適正）を十分に検討して就職先を探すことが大切なものとなります。就職先の知名度や人気の業種よりも、特性による向き、不向きを考えて仕事内容や職場を選ぶことが重要となります。

なぜならば、就職することが一つの目的とはなりませんが、就職した事業所で長く働き続けられることが重要なものとなるからです。相性（適正）を考えずに就職をしてしまうと、合わない仕事や職場環境で苦しみ、二次障害（うつ症状、適応障害など）の発症や、早期離職、場合によっては、解雇されてしまうこともあるため、発達障害の人にとって、自分の適正を知るといった自己理解がとても大切です。

次回のテーマ「就労支援のサービスや制度について」

～訪問相談員の先生方のおすすめ本～ part①

守山市では特別支援教育に精通した先生方に依頼し、研修会や市内校園での訪問相談を行っています。訪問相談の折に、ご紹介いただいた本の一部を掲載しました。ぜひ、お手にとってみてください。



～ シリーズ 発達障害がある子の生きる力をはぐくむ ～

編著（社）発達協会 言語聴覚士 湯汲英史 発行 明石書店

★ 発達につまづきのある子どもの子そだて ―はじめての関わり方（＊0歳から5歳ころまで）



発達障害のある子どもを育てる保護者・支援者に勇気を与える1冊です！
発達障害児のそだちを見通して、具体的で効果的な日々の接し方ができるように療育のプロが基本的な関わり方や考え方を分かりやすく解説されています。

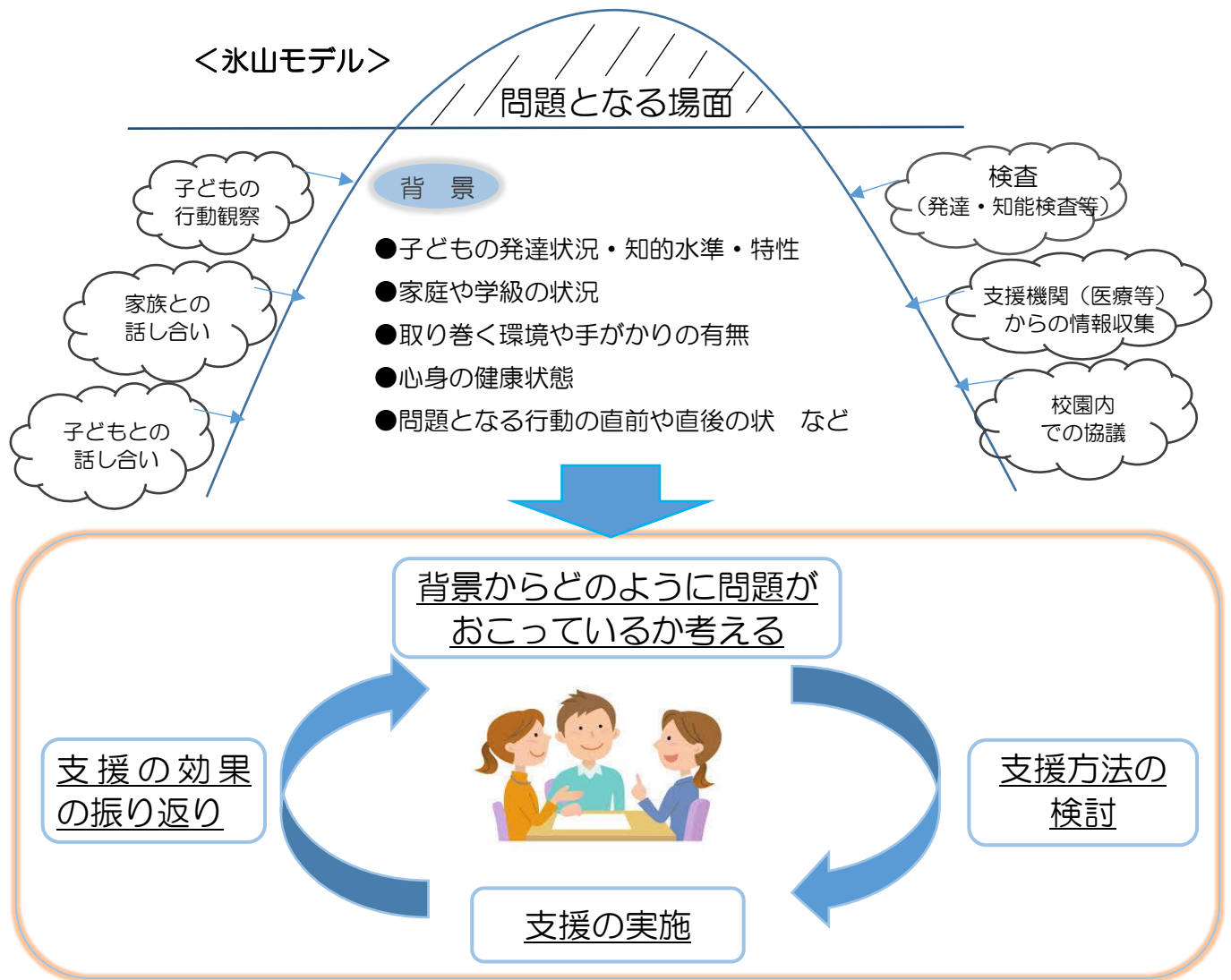
シリーズには他2冊あります。

- ★ 子どもを変える 子どもが変わる 関わりことば ―場面個別指導のポイント
- ★ ことばの力を伸ばす 考え方・教え方 ―話す前から 二語文まで

いろいろな支援がある中で、その子にあったオーダーメイドな支援を実施するためには、まずは子どもを“見立て”ることがとても大切です。今回は“見立て”についてお伝えします。

“見立て”とは・・・

いろいろな情報から子供がどんな状態に置かれているのかを“見立て”することは、支援を考える上で必要なことです。“見立て”の目的は、子どもの支援の手がかりとなる情報を収集して、子どものことを理解し、子どもの置かれている状態に合った適切な支援を探って実施し、振り返ることと言えます。支援を実施した結果を受けて、“見立て”を修正することも当然あります。



上記のイメージ図のように、今起きている問題を校園や家庭、支援機関と話し合ったり、対応策を検討したり、実践したりする前に、問題をそれぞれの立場で「背景からどのような問題が起こっているかを考える」ことが効果的な支援につながります。

当センターで実施している発達検査や知能検査は、子どもの発達状況や知的水準、子どもの中の得意・不得意な側面などについて検討することができます。一方で、検査は“見立て”の一助とはなりますが、子どもを取り巻く環境、周囲からの働きかけ、問題となる行動が起こる直前や直後の状況、家族や子どもの心身の健康状態などについて、日々の中で観察したり、校園や家庭や支援機関で話し合い、情報を共有し積み上げることが、“見立て”につながっていきます。

“見立て”は1人ではなく、保護者、子ども自身、支援の関係者など、支援に携わる人が皆でチームを組んで、話し合いながら検討・共有することで、より支援に役立つものになります。